



平成 25 年 5 月 31 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 サ ン リ ッ  
代 表 者 の 代 表 取 締 役 三 浦 康 英  
役 職 氏 名 社 長 執 行 役 員

(コード番号：9366 東証一部)

問 合 せ 先 取 締 役 西 村 哲  
常 務 執 行 役 員  
電 話 番 号 0 3 - 3 4 7 1 - 0 0 1 1 (代表)

### 中期経営計画の策定について

当社は、平成26年3月期を初年度とする「中期経営計画」（平成26年3月期～平成30年3月期）を策定いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

#### 記

#### 1. 経営理念、ビジョン、行動指針

##### (1) 経営理念

私たちは、『経営品質の向上』を事業活動の中核にすえ、「お客様の意思を尊重し、お客様にとってより品質の高いロジスティクス・サービスを提供する」ことで豊かな社会の実現に貢献します。

「美しく魅力のある会社 サンリツ」を目指し、従業員の心に響く、心が満たされる経営を実践します。

##### (2) ビジョン

確固たるビジネスモデルを確立し、グローバルに成長し続ける、存在感ある企業へ

##### (3) 行動指針

①従業員一人ひとりの現場力を結集し、未来ある目標達成のため、強い意思と実行力を兼ね備えたプロとして、挑戦し続ける。

②失敗に臆せず、成功への経験として導く。

③知覚と五感でイノベーションをおこし、機動力のある事業運営で、適正な利潤と持続的な成長を実現する。

④気づく力を養い、安全品質向上へ。

#### 2. 全社戦略

##### (1) 収益体質の強化

##### (2) 現場力の向上

##### (3) 日・中・米間の国際物流の確立

##### (4) 品質レベルアップによる顧客満足度の向上

##### (5) 技術開発力の向上

### 3. 事業戦略

(1) エリア（日本、中国、米国）

全拠点での一貫物流、日本、中国、米国での選択と集中。  
海外売上高比率を 20%とする。

(2) セグメント（梱包、運輸、倉庫、賃貸ビル）

梱包技術継承、環境対応、輸配送ネットワークを強化。  
経営資源の有効活用。

(3) 事業分野（3PL、国際物流）

主要顧客の 3PL 業務拡大、高付加価値業務の獲得、  
日本・中国・米国の 3 極体制の強化。

(4) 現場力（品質レベルアップ、人材育成、環境への取組み）

更なる顧客満足度の向上。

### 4. 連結業績目標

（単位：百万円）

	平成 26 年 3 月期	平成 28 年 3 月期	平成 30 年 3 月期
売上高	17,000	19,000	20,000
営業利益	680	810	1,000
営業利益率	4.0%	4.3%	5.0%
経常利益	530	660	850
経常利益率	3.1%	3.5%	4.3%
純利益	310	390	510
純利益率	1.8%	2.1%	2.6%

※なお、当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づき記述したものでありますが、この記述は、将来の業績を保証するものではなく、経営環境の変化等により異なる可能性があることをご留意ください。

以 上

# サンリツグループ 中期経営計画

平成26年3月期～平成30年3月期

平成25年5月31日  
株式会社サンリツ

## 当グループが直面している課題

### 環境の大きな変化、急激な変化

- ⇒ 物流業界の競争激化
- ⇒ 製造業の海外移転加速など、国内産業の空洞化

### 必要とされる対応

- ⇒ 今後成長が見込まれる分野及び大型案件の獲得
- ⇒ 環境の変化やスピードへの柔軟な対応
- ⇒ 利益体質への変化

## 経営理念

私たちは、『経営品質の向上』を事業活動の中核にすえ、「お客様の意思を尊重し、お客様にとってより品質の高いロジスティクス・サービスを提供する」ことで豊かな社会の実現に貢献します。

「美しく魅力のある会社 サンリツ」を目指し、従業員の心に響く、心が満たされる経営を実践します。

## 5年後のビジョン

確固たるビジネスモデルを確立し、  
グローバルに成長し続ける、  
存在感ある企業へ

## 行動指針

- 1.従業員一人ひとりの現場力を結集し、未来ある目標達成のため、強い意思と実行力を兼ね備えたプロとして、挑戦し続ける。
- 2.失敗に臆せず、成功への経験として導く。
- 3.知覚と五感でイノベーションをおこし、機動力のある事業運営で、適正な利潤と持続的な成長を実現する。
- 4.気づく力を養い、安全品質向上へ。

# 全社戦略

- 1.収益体質の強化
- 2.現場力の向上
- 3.日・中・米間の国際物流確立
- 4.品質レベルアップによる顧客満足度の向上
- 5.技術開発力の向上

# 全社戦略概要図

## 新たな事業展開

事業の拡大（収益体質の強化）

日・中・米間の国際物流確立

## 事業基盤の強化

財務体質の強化      ロス・コストのゼロ化      経営資源の有効活用  
（収益体質の強化）

## 人材育成と品質レベルアップ

品質レベルアップによる顧客満足度の向上

現場力の向上（梱包、専門性、グローバル化）

技術開発力の向上

※人材育成と品質レベルアップをベースとして、収益体質を強化しながら、利益体質へ改善していきます。

# 事業戦略

## 1.エリア(日本、中国、米国)

- …全拠点での一貫物流、日本、中国、米国での選択と集中。  
海外売上高比率20%。

## 2.セグメント(梱包、運輸、倉庫、賃貸ビル)

- …梱包技術継承、環境対応、輸配送ネットワーク強化、  
経営資源の有効活用。

## 3.事業分野(3PL、国際物流)

- …主要顧客の3PL業務拡大、高付加価値業務獲得、  
日中米の3極体制強化。

## 4.現場力(品質レベルアップ、人材育成、環境への取組み)

- …更なる顧客満足度の向上。

# 事業戦略



## 数値目標

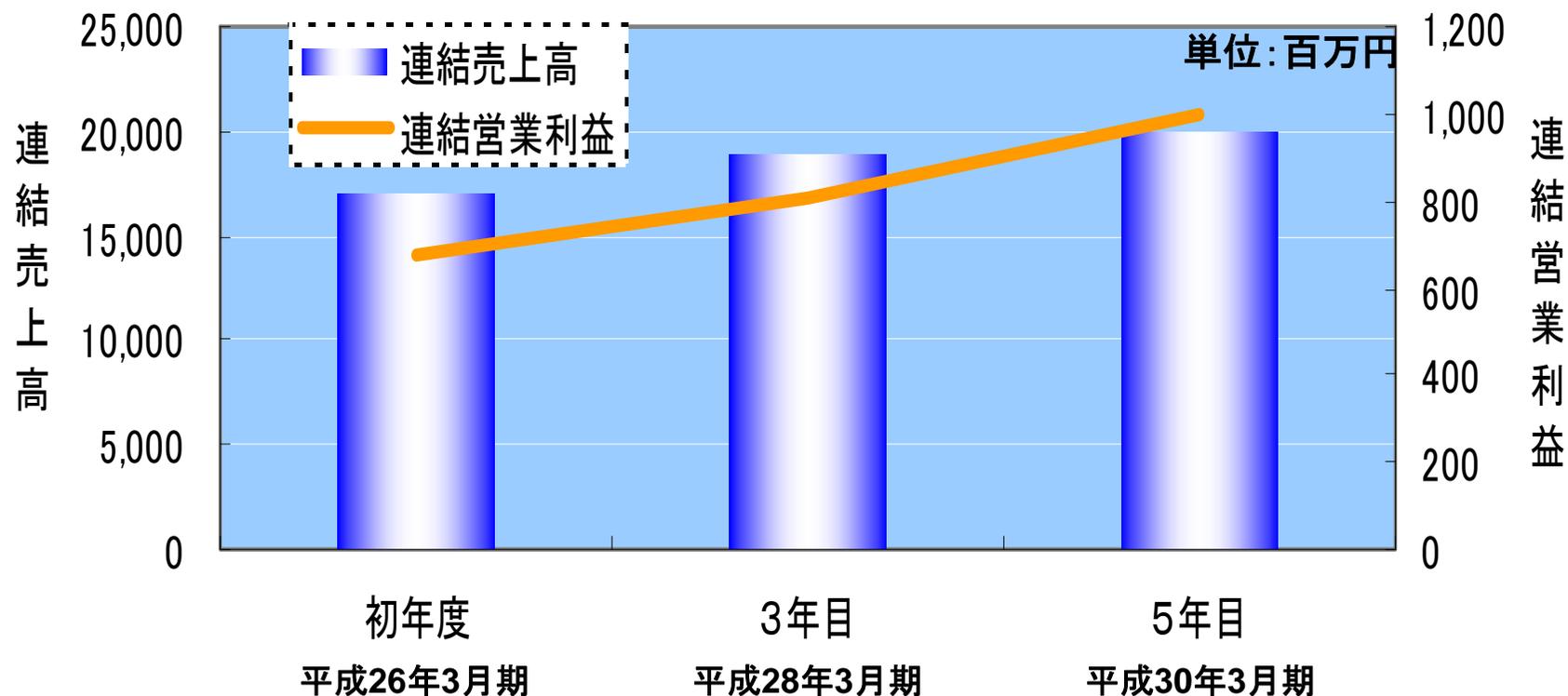
### 連結業績目標

単位：百万円

	1年目 平成26年3月期	3年目 平成28年3月期	5年目 平成30年3月期
売上高	17,000	19,000	20,000
営業利益	680	810	1,000
営業利益率	4.0%	4.3%	5.0%
経常利益	530	660	850
経常利益率	3.1%	3.5%	4.3%
純利益	310	390	510
純利益率	1.8%	2.1%	2.6%

## 数値目標値

# 連結売上高・連結営業利益推移



※当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づき記述したものでありますが、この記述は、将来の業績を保証するものではなく、経営環境の変化等により異なる可能性があることをご留意ください。